



環境教育学会 関西支部通信

第2号

関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方々に環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費（1年分）をいただきましたら、ワークショップの案内葉書と ECOMAILを送らせていただきます。

（通信費振込先……郵便局「大阪 9-37886」

第4回ワークショップが9月8日に、約40名の参加で開かれました。大教大附属池田小学校の菅井教諭が「身近な自然を環境教育にどう生かすか」と題して、理科の授業での実践を報告されました。要旨は以下の通りです。

身近な自然を環境教育にどう生かすか

大阪教育大学附属池田小学校 菅井啓之

- ・環境教育のあり方としては、環境問題を直接扱う対処療法的な方法と、環境や自然についての理解を深め豊かな感性や心情を培う体質改善的な方法とがある。
- ・校庭や学校周辺における「身近な自然観察」は、根本的な治療として自然破壊を引き起こしてきた基の考えを断ち切り、健全な自然観のもとに自然とつき合えることを目指している。つまり、自然に対して生態学的な理解を深めさせるとともに、自然を肌で感じさせることをその主な目的としている。
- ・「身近な自然観察」が狙うところ
 - 1)自然に親しみ、自然との距離を短くする。
 - 2)体験を通じた納得・わかり方をする。
 - 3)感覚を磨く。
 - 4)季節感を育てる。
 - 5)生態学的概念の基礎作り。
 - 6)散歩のこころを養う。
- ・今後も、自然に対して豊かな心情と健全な生態学的自然観の育成を目指した「身近な自然観察」のより具体的な方法を探っていきたい。

コラム

「環境教育」って何？

ときどき、そんな質問を受けることがある。あるいは「環境教育」の実践者の方々と話をしていて、何かくいちがいをを感じる時がある。どうも人によって「環境教育」のイメージが違うようである。

それは環境教育の全体像がまだ明確にされていないためである。人間にとっての環境には自然環境、社会環境など様々な側面がある。今日それらの環境が人間の生存を脅かす状況に至った。その解決に向けての方策の一つとして環境教育がクローズアップされてきた。その意味で僕は環境教育の最終目標を「文明のあり方を考えることのできる人々の育成」と考えている。

その目標に到達するには様々なルートがあろうし、それぞれのルートにもいくつかのレベルがあろう。またそのルートを歩く人も様々である。「環境教育」を論じるとき、そのルート、レベル、学習者などをはっきりさせないと、議論がすれ違いに終わり、混乱を招くことになりかねない。環境教育の実践者はその全体像を把握し、その中での自分の教育活動の位置を常に自覚しておく必要がある。(大阪教育大学・鈴木善次)

今後の活動予定

第6回ワークショップ (日本科学教育学会環境教育研究部会と共催)

日時 11月24日(土) am.10:30~pm.5:00

会場 大阪教育大学(教室は当日掲示)

主題 「これからの環境教育」

午前：一般報告 午後：特別報告、パネルディスカッション

(詳細は同封別紙のプログラムをご覧ください)

※この研究会では報告集を作成し、当日配布します。科学教育学会研究会員以外の方は報告集代千円を参加費としてお支払い下さい。

ネット・ワーク



ゴミ処理場でのキャンプ

(第3回 豊中ふしぎ体験キャンプ ゴミ処理場 報告) 7月28~29日実施

ゴミ焼却場と汚物タンクにはさまれてテントを張った光景は、なかなか味わえない不思議さがありました。プログラムは発泡スチロールのイグルー、古自転車の部品で焼いたバーベキュー、廃物利用のおもちゃづくり、井上有一先生のアルミ缶の話などです。炎天下、とほうもなく大きな金属ゴミの山を2人のおじさんが再生可能なアルミと鉄をもくもくと手でより分けています。そのおじさんが汚れた軍手を外して一杯飲めやと差しだして下さったジュースに感激し、それ以来金属ゴミの日にはアルミと鉄をきちんと分類して出すようになりました。とりあえず私にとっては有意義なキャンプでした。(高田 研)

暮らしと環境フェア（大阪市主催）が、9月10～12日、アベノ近鉄百貨店で開催され、4500名の参加がありました。低公害車、牛乳パック再生紙、廃油再利用石鹸など展示や、環境クイズゲーム、トークショーなどのイベントを通して、暮らしの中にある環境問題を考え、行動することの重要さを広く市民にアピールしました。

九車輪の台地—日想観への回帰—（上町台地を考える会、阪大環境工学盛岡研究室）が秋分の日で開催され、約250名の参加者が上町台地を巡りました。上町台地の斜面に沿って残る緑のベルトや、多く連なる社寺や史跡は、開発の進んだ都市にとって貴重な環境資源です。曇で四天王寺西門に沈む夕陽を観れませんでした。また来年の春分の日という参加者もあり盛況でした。（大阪市立環境科学研究所 榎元慶子）



し案内

【1】 大阪市立婦人会館、**環境問題夏講座**

「地球にやさしくらしづくり入門」

10/16～10/27 毎火曜日 pm. 6～8時

10/16 「今日の環境問題と市民の関わり」 大阪大学助教授 盛岡 通

10/23 「環境チェックポイントと手法」 循環科学研究室 山田 國広

他講師—長島俊介（奈良女子大）、平松幸三（京都大）、近藤隆二郎（大阪大）

申し込み 大阪市立婦人会館 TEL 06-772-0061

【2】 豊中市立中央公民館、**豊中ふしぎ体験キャンプ**

（第4回）「都市と下水と子どもたち」

10/16～10/27

場所 庄内下水処理場

対象 小中学生 40名

申し込み 豊中市立中央公民館 TEL 06-866-0555

【3】 大阪自然環境保全協会、兵庫自然教室、**地球教育** (EARTH EDUCATION)

—JEE（地球教育研究所）、スティーブ・バン・メーター (Steve Van Matre) —

11/3、11/4

会場 11/3：箕面公園、政の茶屋ビジターセンター

11/4：神戸

問い合わせ 11/3：大阪自然環境保全協会 TEL 06-374-3376

11/4：兵庫自然教室 TEL 078-221-5103

【4】 大阪自然環境保全協会、**自然観察指導者養成講座**

11/6、13、18

問い合わせ 大阪自然環境保全協会 TEL 06-374-3376

【5】 ごみを考える全国集会

「ごみの行方から学ぶ」「私」にできるごみ減量作戦」

11/17, 11/18

会場 11/17: 吹田市、オオサカサンパレス

11/18: 大阪市教育青年センター他

参加費 1500円 (17日のみは1000円)

問い合わせ ごみを考える全国集会実行委員会 (浜野) TEL 06-685-5079

【6】 吹田市、公害セミナー

(第3回) 「地球的に考えて足もとから行動しよう！」

11/6, 11/7, 11/14, 11/21, 11/27

講演・3回「地球の温暖化」(日本気象協会, 中野道雄)

「地球的森林破壊と都市環境」(大阪市大, 高田直俊)

「地球環境と酸性雨」(京大, 池田有光)

フォーラム・1回「吹田の環境から地球をみつめる」

分析実習・1回-雨の成分分析

会場 メイシアター

参加費 無料

申し込み 吹田市公害検査室 TEL 06-382-4946 (10/20まで)

【7】 みどりのトラストフェスティバル

---森と人のシンフォニー--- ---フィールド・キッセ---

11/10, 11/11

会場 11/10(14:00-17:00): 万国博ホール

11/11(10:00-16:00): 万国博記念公園, 自然観察学習館前広場

はらっぱコンサート(高石ともや, 関西草笛愛好会他) 草花遊び

草笛教室(G. E. C. グローバル環境文化研究所)

参加費 無料

申し込み (財)大阪みどりのトラスト協会 TEL 06-949-2110



◆次回のECOMAIL (第3号) からは、通信費納入者に限って送らせていただきます。
送付希望の方は手続きをして下さい。

◆話題提供者募集 ◆原稿募集 次回 第3号 1990年12月 発行予定 原稿締切 11月末日

関西 ECOMAIL 第2号 1990年10月13日発行

ワークショップ通信葉書と隔月発行 通信費 年1000円

編集 環境教育学会関西支部世話人会

発行 環境教育学会関西支部

〒543大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 鈴木善次研究室内

TEL 06-771-8131 (内線417)

パソコン通信で原稿をくださる場合は NIFTY= PFG00460